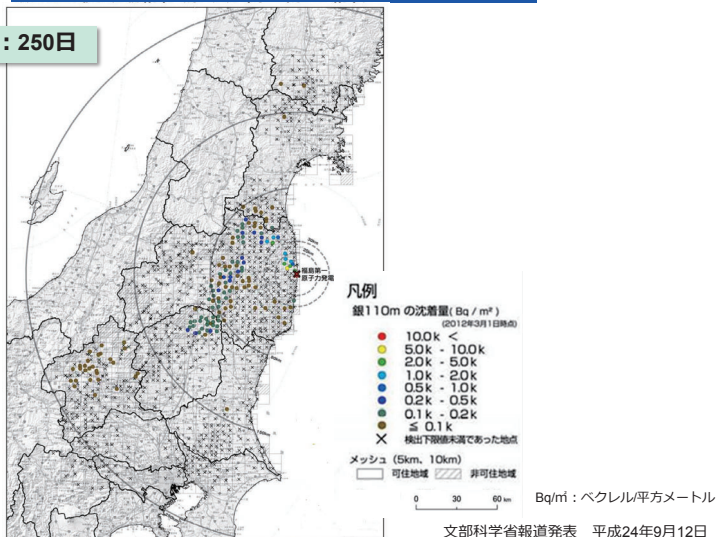


銀110mの土壤濃度マップ (平成24年3月1日時点)

半減期 : 250日



2011 (平成 23) 年 12 月から 2012 (平成 24) 年 5 月にかけて行われた土壌調査では、福島県を中心とした東日本の広い地域において、可搬型ゲルマニウム半導体検出器を用いた in-situ 測定 (24 頁「Cs-134, Cs-137 (広域)」参照) により、放射性核種の土壌沈着量が測定されました。

2011 (平成 23) 年 6 月に行われた国の土壌調査では、福島第一原子力発電所から 100km 圏内及びその圏外の福島県西部の土壌試料を採取し、γ (ガンマ) 線放出核種 (放射性セシウム、ヨウ素 131、テルル 129m、銀 110m) について核種分析が実施されました。その結果、テルル 129m (沸点 1,390 度) 及び銀 110m (沸点 2,348 度) が比較的広範囲に検出されました。

本資料への収録日 : 2013 年 3 月 31 日

改訂日 : 2014 年 3 月 31 日

本情報は 2012 年の情報です。

関連 Q&A

- ・ 3 章 QA1 モニタリングの実施状況について教えてください
- ・ 3 章 QA2 セシウムをはじめとする放射性物質の汚染状況の調査はどうなっていますか
- ・ 3 章 QA3 農地土壌の放射性物質による汚染状況はどのようになっていますか
- ・ 3 章 QA4 物理減衰やウエザリング効果は、どの程度だと考えられるのですか
- ・ 3 章 QA12 雨水や日常食のストロンチウム 90 やセシウム 137 はどのようにすれば測れるのですか
- ・ 3 章 QA16 食品、上水中の放射性物質はなぜセシウム 134、セシウム 137 やヨウ素 131 の濃度しか発表されないのですか